

試験研究課題名：再処理施設環境放射能総合調査（平成9年度～平成11年度）

：被ばく低減化環境放射能総合調査（平成12年度）

：放射性物質等分布調査 - 社会環境パラメータ調査 - （平成13年度）

研究の概要：再処理施設における国の安全評価に用いられたパラメータの安全裕度を確認することが本研究の目的である。更に、再処理施設の操業開始以降は定常的なモニタリングが実施されるが、これらのモニタリング結果を的確に解析評価するためには広範囲に渡る自然・社会環境データ等を取得し、これを現状に合わせて更新していくことは極めて重要となる。これらの観点から本調査を実施した。

研究期間：平成9年度～平成13年度（5年計画）

研究成果

産物の生産・流通に関する調査：国の安全評価に用いられた農・畜・水産物の生産・流通に関するパラメータについて調査した結果、安全審査に使用されている農・畜・水産物の生産・流通に関するパラメータは、全体的に安全側の値であったことが認められた。

被ばく線量低減化に関する調査：食品への放射性核種等の移行低減化及び食品からの除染法及び除染係数、環境からの放射性核種等の除染法及び移行低減化に関する情報について、除染方法とその係数を中心に整理した。

評価結果の概要：調査の進捗度や目的・目標は適切であると評価される。調査の進め方、スケジュールについても同様であり、成果の達成度も問題はない。本調査のような自然・社会に関する基礎的データは、日々変化しつづけるものであるため、定期的に調査を実施し、被ばく評価に資することが望ましい。また、データ調査に留まらず、線量評価に配慮した調査の展開に期待する。しかし、人的資源の拡充が望まれる。

対処方針：評価の意見を取り入れて、新たな調査に展開したい。